■報告

オホーツク技術士会 現場見学会

最近、地方技術士会の活動の様子が生き生きと報告されていると感じており、今回の現場見学会(技術研修会)の報告を拝読いたしまして、更にその印象を深めております。

この見学会では「道路・橋梁」、「農業・かんがい排水」、「河川・水環境」と多岐に亘った内容で、専門に特化した研修会の多い中で流石に「技術士会」と思われる企画でした。写真から伺える範囲ですが、参加者のなかに若手の技術者もいらっしゃるようです。このような見学会から得られた体験は、将来きつと役立ってくるように思われます。ただ、このような素晴らしい見学会にしては、参加者が 12 名と少し残念な感じを抱きました。札幌在住の会員も「ふるさと技術士」として出身地の地方技術士会にサポーター登録して、活動に協力していけるような工夫があればよいのではと思いました。技術士同士の交流の場も広がり、自分を育ててくれた「ふるさと」に恩返しをできるような活動にも繋がっていきそうです。

現地見学会の企画は、参加者の募集から様々な手配まで大変なことも多く、天候などの不確定な要素もあってご苦労をされたかと思います。幹事さん、どうもお疲れ様でした。

(ふるさとは胆振&後志：MK)

寒地土木研究所との連携事業の推進

寿都町において、文部科学省が立ち上げた「理科支援員等配置事業」が「寿都町理科特別講師配置事業」として継続され、現在に至っていることに感銘を覚えた。2007 年度から小学校の理科事業の充実・活性化を図るため、日本全国でスタートしたこの支援員配置事業が、政府のいわゆる事業仕分けで

2009 年にわずか 2 年で「廃止」と判定されたにもかかわらず、脈々と継続していることに拍手を送りたい。また、寒地土木研究所と日本技術士会北海道本部が「連携・協力協定」を結んでこの事業に参画していることも素晴らしいと思う。

いま教育改革が叫ばれ、過去のゆとり教育の弊害で幼い子ども達に本来なすべき教育が適切に行われてこなかった現実を見ると、外部講師として寒地土研や日本技術士会が経験者或いは専門家としての立場から教師を補完し、小学生を指導教育することには大きな意義があると思う。日本の小中学生の学力が世界的に見てかなり低下しているとするデータからゆとり教育が見直され、その結果学力が回復してきているといわれる。特に理数科目の成績が大幅に低下してしまったところからこれを回復することは重要である。理数科目は学習の基本であり、今後とも小学校の低学年から教育に力を入れるべきである。

将来ある子ども達に興味を持たせ、教師の質の向上にも貢献するであろう連携事業が今後とも発展的に継続されることを望む。

(K. T)

■会員のひろば

拓北・あいの里地区「あいの里技術士会」の報告

あいの里技術士会が、地域貢献・地域経済の発展を目的に活動されていることを知り、これこそ地域に根差した技術士会活動であるとの思いから大変感銘を受けました。活動内容は、市民親子が栽培・収穫した新鮮な野菜を使ってピザを作るための「タンドリー窯」を製作したり、さらに今年はインド料理で定番のナンを焼くための「タンドール窯」というものも製作したとのことで、技術士の力を存分に発揮しているなど感じています。また、冬は住民と一緒に茨戸川でワカサギ釣りを楽しむ一方、最も技術士

らしい活動として防災意識の啓発を目的に町内会の依頼により防災プロジェクトに取り組んでいるとのこと、技術士の啓蒙にも大いに役立っているのではないのでしょうか。会の名前は「あいえん会」というそうで、漢字をあてはめて「愛縁会」だと気心がよく合う縁を持った人たちの集まりということになり、そのほかとしては「愛煙会」も考えられますが、やはり「愛宴会」が個人的には最もいいと思います。

いつものおせっかい男 MS

■活動レポート

技術交流研究会「第 126 回 研究会報告」

技術交流研究会主催「不安とうつ：健常と病気の境目」(北海道大学病院精神科神経科講師 井上猛氏)講演会の報告です。メンタルヘルスに関する講演ですが、私も 40 歳後半から精神的に不安定な時期を経験していて、大変興味があります。女性だけでなく男性にも更年期障害があると聞いて、そのせいかかと考えていました。講演会開催のお知らせは、E.P.O メールなどで送られていたのでしょうけど、私は知りませんでした。参加できなかったことが残念です。

講演の内容報告で、日本では平成 10 年より毎年の自殺者が 3 万人を超えているとあります。これをみて以前に読んだ作家 五木寛之氏のエッセイを思い出しました。ベトナム戦争のアメリカ兵戦死者が 10 年でおおよそ 5 万人ですから、1 年で約 5 千人、昔交通事故の死者数が年間 1 万人を超えて、これを交通戦争と呼びました。そうすると現在の日本で起きている自殺者 3 万人というのは、戦争と同じ「こころの戦争」だろうということでした。私もまったくそう思います。

最近あるテレビ番組で、昨年の東日本大震災後のある町医者が紹介されていました。この町医者は、震災後の地域で在宅看護の患者を見て回っている方です。その医者が最後に言われたことですが、「震災復旧にはお金も医療も必要だが、もう 1 つ大事なものが重要です。それは「あの世学」です。医学ではあの世学を教えていません。この学問の面からケアしてくれる人に来てほしい。」とのことでした。私はこれを聞いて、津波で一瞬にして大切な家族を失っ

た被災者には、医学にある精神科的な心のケアでは限界があるのだらうと思いました。

国は自殺対策に関連する予算を計上して各種事業を行っていますが、減少する傾向がみられません。一見平和そうに見える今の日本ですが、人が生きるためのお金では解決できない何か大切なものを忘れていたような気がします。それは……。

それにしても、今回の講演会に参加してみたかったなあ。残念！

追記：最近、本年度は自殺者が 3 万人を下回るとの報道がありました。まだまだ多すぎです。

(Y. K 血液 AB 型)

■ 128 号の読者の声に対して

128 号の本コーナーで、エンジョイ・サイエンス研究会への激励をお二方の読者からいただきましたことに厚く御礼申し上げます。リージョナルステート研究会の分科会として活動してきた 10 年間の実績を礎とし、今後も新生研究会としてより活発な活動を続けていく所存ですので、これからも皆さまのご支援とご理解を賜りますようよろしくお願いいたします。

エンジョイ・サイエンス研究会代表 対馬一男